



地域の学校開放図書館

読書の秋、たくさんの本を読むのに便利な図書館。
でも「家からは遠いからなかなか行けない」
「お買い物の帰りにちょっと寄れる場所にあれば良いのに」
と考えていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。
あなたの身近にある「学校開放図書館」のことはご存じですか？

●区内の学校開放図書館

市では、地域の方に多くの本を読んでもらうために幅広い年齢層の交流を図るため、一部の小中学校の図書室を、地域の皆さんに開放しています。この「学校開放図書館」は、一九七八（昭和五十三）年に、市内の一つの小中学校で始まり、今では七十八校（区内では十二校）の小中学校に設置されていて、誰でも利用することができます。

開放図書館では、本を閲覧するだけでなく、借りることもできます。身近にある図書館として、開放図書館の利用は、地域に浸透してきています。

開放図書館を支えているのは、市全体で約三千数百人もいるボランティアの方々です。そのうち開放図書と呼ばれる方が中心となって、本の貸し出し業務から読み聞かせ会などの催し物の企画まで、運営のすべてを担っています。

この独自の方法は「札幌方式」と呼ばれ、全国的に注目されています。学校・家庭・地域社会が連携して地域の子どもたちを幅広く、読書を通じて地域の生涯学習活動を盛んにするなど、これまで多くの役割を果たしてきました。

何といっても近くて便利

開放図書館には、小さな子どもを連れたいお母さんも、よく訪れます。幼児を連れて遠くの図書館まで行くのは大変ですし、静かな雰囲気のある図書館よりも子どもが伸び伸びできるのが人気だそうです。先輩お母さんから育児のアドバイスも受けられるかも知れませんね。



ゆっくと絵本を楽しむ親子連れ

幅広い需要に応えます

学校の図書館といえば児童書や絵本のイメージが強いのですが、開放図書館には、大人向けの一般書や新刊も並んでいます。

また、本の購入希望を出すこともできます。読みたい本が見つからないときには、ボランティアの方の相談してみましよう。



読み聞かせや紙芝居などの行事も行われています

また、本の購入希望を出すこともできます。読みたい本が見つからないときには、ボランティアの方の相談してみましよう。